

WITH

arisawa communication magazine

ARISAWA の今を伝える情報誌

人と人との想いを次の100年へ
ARISAWA 100th ANNIVERSARY

VOL. 13
2016 JULY

感謝を込めて100周年



WITH

VOL.13

発行日 2016年7月15日

発行 有澤建設株式会社 広報委員会

福岡市博多区博多駅南3-3-12

ARISAWA の自慢



社是

我々は誠実で豊かな心を待ち

常に無限の可能性を信じ

日々改革

日々前進し

一日も現状に

甘んじてはならない

平成十年九月一日



日々改革・日々前進

工務部 統括所長

福浦 澄夫

私が、有澤建設に転職して10年が経ちました。入社した当初一番印象的だったのは、社員それぞれの業務に対する誠実な姿勢でした。有澤建設の社是の中に、『日々改革 日々前進し 一日も現状に甘んじてはならない。』という一文があります。我々は目標を立て、それに向けて足りないところを日々向き合い改善しています。また、それを社内全体の信頼関係のもとに行っております。

私の目標は、お客様に満足して頂ける商品（建物）を提供する事です。長年やっていても「満足」とはとても大きな目標だと毎回感じます。お客様が『どの様な思い』で注文頂いたのか、また『どの様なイメージか』等を打合せですべてお聞きし、『より良く』『より綺麗に』『よりリーズナブルに』技術提案する事が、目標としている『満足』への道なのだと私達は考えています。

時にはご提案したものに、最初はお指摘頂くことがあります。『きつとお客様のためになる』という強い信念のもとに、ご理解して頂けるように誠心誠意努めます。お客様のためと思ったことでも、ご本人に納得して頂くからこそ、満足した商品（建物）となり喜んで頂けると思っています。

これからも、『日々改革・日々前進』し、お客様に喜んで頂ける商品を妥協なく追及していきます。



皆様のおかげで
有澤建設は
今年100周年を迎えます。
これまでも
これからも
みなさまのそばに
有澤建設。

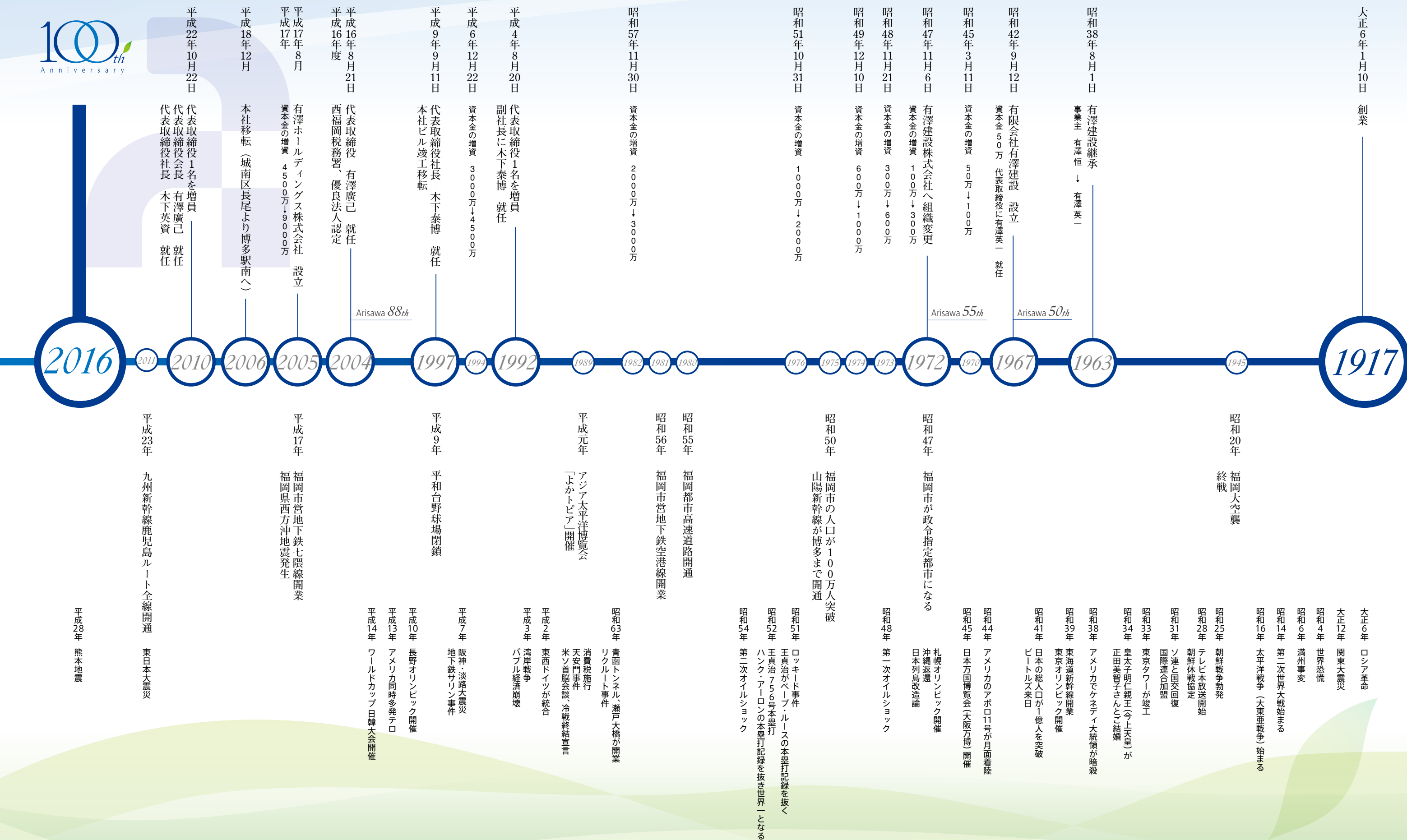
有澤建設株式会社は今年の9月をもって100年目となります。先代の有澤恒が立ち上げた当初、どんな思いで立ち上げたのか、100年続く企業に成ると予想していたのか、節目のこの時期だからこそ聞いてみたい思いに駆られます。100年に至るまでには第1次世界大戦、第2次世界大戦など世界の大きな波に影響されることも多々あり、100年永続できる企業は1000社の内2社以下と言われていると思います。ではなぜ、有澤建設株式会社が生き残ることができたのか。それは世間に存続を認めていただいたからに他なりません。近江商人の買い手よし、売り手よし、世間よしの「三方よし」の精神を考えると、当社が永続できているのも多くの方々のおかげだとつくづく思い、感謝しても足りないと思います。

また、常に時代は変化しており、歴代の社長は柔軟にその変化に対応してきたからこそ今の今があるとも感じております。今年4月におきた熊本・大分大地震は今でも余震が続いており、もとに戻るにはまだ時間がかかります。こんな時に私たちにできることを真剣に考え、私たちだからこそできることをやることで、当社を作り上げてくれた社会に恩返ししていきたいと考えております。また、今後私たちが想定しきれない出来事に会ったとしても、社員一丸となって変化に対応できるような、そんな柔軟な組織体でありたいと考えております。101年目のその先を見据え更に社会に認めてもらえる企業を目指し変化していきます。

有澤建設株式会社 代表取締役社長

木下 英資

表紙) 右:有澤建設株式会社 代表取締役会長 有澤廣己 左:有澤建設株式会社 代表取締役社長 木下英資
建設中の新社屋にて



素敵なお笑顔は、積み重ねた信頼の証

協力会社の本田組様とは40年、松中組様とは60年来のお付き合いとなります。
有澤建設先々代から取引をさせて頂いており、有澤建設の歴史の中で苦楽を共にし、
有澤建設の礎を支えて頂いた協力会社様に伺いました。

小野社長、本田社長と川端さんとの初めての出会いを教えてください。

本田 20年前ぐらいになります。川端さんが現場入りたてで、右も左もわからないといった頃からです。

川端 お二人にはみっちりしごかれまして。元受けとか関係なく、遠慮なくバシバシ指導していただき当時はその厳しさを理解できなかった時もありますが、今はその愛情の深さに本当に感謝しています。

小野 当時は本当に言うこと聞かなくて反抗的でしたもんね（笑）

川端 そうでしたね。最初は反抗ばかりしていた気がしますが、経験や知識を得てお二人と対等に話ができるようになったことから、仕事が楽しくなってきたからですね。

川端さんは100周年に当たり感謝を伝えたい方に小野社長と本田社長を上げられましたが、その理由は？

川端 それは工期が短かったり予算が少ない場合など無理を言うことがあるのですが、それでも手を抜かず悪い顔もせずしっかりと仕事してくれて、この場をかりて感謝したいと思いました。

小野 それは有澤建設さんとの信頼関係ですね。持ちつ持たれつというか、有澤建設さんのためと思ってやったことをしっかりと見てくれて、後でそっと返してくれる。見ていてくれるという信頼があります。

本田 それに、現場に入る前に有澤建設さんがしっかりと流れを作ってくれている。その流れがいろいろ想定した効率的なものだから、ちよつと納期が早まったも対応できるものなんですよね。

インタビュー時の緊張した雰囲気とは一変、津原次長が通じかか「俺もいい」と言いながら4人で撮影した時のやり取りを見た時に、しっかりと信頼関係の上にある素敵なお笑顔だと納得。



工務部 次長

川端 俊和

本田組 代表取締役

本田 良人 様

工務部 次長

津原 弘樹

松中組 代表取締役

小野 義孝 様

工務部 設計 主任

中小川 泰弘

佐藤様
御一家

お客様のこだわりを
ひとつひとつかたちに

施主様の夢や要望を図面の中で現実のものにしていく、住宅設計という仕事。時には施主様以上に細部までこだわり抜き、一緒に造り上げていった末、大満足の笑顔を見せてくださった佐藤様御一家。そんな施主様に伺いました。

福津市：佐藤潤一様宅

延床面積：169.77m²

敷地面積：650.89m²

工法・構造：木造枠組壁工法

有澤建設で家を建てたきっかけを教えてください。

有澤建設さんで以前家を建てられた知人の紹介がきっかけです。

家を建てるにあたってどのような点にこだわりましたか？

住み心地の良い家にしたいと考えていました。全館空調システムという家中まるごと冷暖房できる設備を導入しており、部屋間の温度差の少ないことや、黄砂やPM2.5などの汚れた空気を室内に入れないことなど、家族が健康で快適な暮らしができるようにこだわりました。

その他、雨の日でも外の駐車場から濡れることなく家の中に入るような動線の工夫や家の中にハンモックを吊るしてくつろげるような遊び心あるスペースなど随所にこだわっています。

家を建てる過程で印象に残った事はありますか？

家を計画している途中で出産を迎える事になった為、一定期間は打合せを休止していた時期がありました。子供が生まれる前と後では、私達の家づくりの考え方も少し変化してきて、間取りや使い勝手など納得いくまで打合せをしました。

私達が要望をお伝えした時に、有澤建設さんは出来ませんと簡単に断ることなく、どのようにしたら実現できるか、またコストを少しでも抑えられるように一緒に考えてもらえたのが嬉しく、とても印象に残っています。

中小川…定期的に行う打合せ以外にも、随時メールや電話でもやり取りしながら佐藤様と打合せを重ねて進めていきました。ご主人自ら間取り図を描かれたりと、家づくりに積極的に参加されていてとても印象的でした。

中小川さんへの質問ですが、今回家づくりに携わられて佐藤様への感謝の気持ちを教えてください。

中小川…私達が家づくりをお手伝いする際、常に心掛けている事は、お施主様と共に造り上げていく過程をとっても大事にしている事です。佐藤様とも一つずつ丁寧に打合せができたのではないかなと思います。その過程を経て建物を引き渡した後も、このような良好なお付き合いが出来る関係性が築けた事が嬉しいですし、有澤建設で家を建てて良かったと感じてもらえている事に大変感謝しております。

株式会社ソワニエ 取締役会長

舩田 憲二 様

株式会社ソワニエ 代表取締役

舩田 憲吾 様

企画営業部 次長

藤木 将志

心から愛せる場所づくり

オーナー様の熱い想いを実現させるべく、有澤建設の営業マンたちは日々奔走し続けています。「ラフレシーサ」シリーズで賃貸マンションを数棟所有されているソワニエ様にお話を伺いました。

株式会社ソワニエ

福岡県福岡市中央区舞鶴1丁目1-30
<http://soigner-f.co.jp>

「ラフレシーサ別府」前にて
福岡市城南区田島2-18-24

今回、有澤建設に建築を発注された経緯は？

土地のご紹介があり、そこで細かい注文にも対応して頂けそうな期待感があつたのでお願いしました。

この地を選んだ点は？

地下鉄別府駅に近く、前面道路が整備され、賃貸マンションの競合が少ないという立地が良かった点だと思います。

建物でこだわった点は？

建物の外観を分譲マンションと比較し遜色のない仕様にしました。また、妻が炊事で手が荒れやすい事を気にしていたので、賃貸では珍しいかと思いましたが、食器洗浄機を標準で取りつけまして、入居者の方々には喜んで頂いています。

営業担当の藤木さんの印象は？

我々の無理な要望にも単に断るのではなく、実現するために試行錯誤し、親切・丁寧な対応をして頂いたという印象です。

工事途中での思いは？

関係者一同にて、定期的に会議を行い、良い建物を作る為に、皆で知恵を出し合ったことが思い出されます。

今後の有澤建設に期待することは？

今度、100周年を迎えるということですが、これからもお客様の期待に沿い、頑張っ頂きたいと思っています。

藤木…会長には末永く現役で頑張っ頂きたいです。舩田社長とは同年代になりますので、一緒にこれから建物も見守り続けていければと思っています。



高倉…お客様から白蟻を含め害虫についての問い合わせがあると、中川白蟻様へご相談し、現場で対応策を教えて頂く事が多くあります。中川社長を初め、社員の方からもアドバイスを頂き、お客様へのフォローアップにつながっています。現地確認、調査は無料でやってもらっていますが…(笑)。また、個人住宅のお客様への保証が切れる時期の無料点検もお願いしております。施工・対応等で十分に信頼が出来るからこそです。

高倉…中川社長様には30年前の賃貸ビルの他、17年前には中川白蟻様社屋の建設もご依頼頂きました。数多くのお付き合いのある建設会社の中から、有澤建設を選んだ事は、有澤建設を信頼して頂いているからこそだと思います。今後も、今までの信頼関係をより一層深くしながらお付き合いをさせて頂ければと思っています。



有澤建設との付き合いは何年位になりますか？
もう50年はお付き合いをさせていただいていると思います。弊社は今年で創業80年を迎えますが、これまで有澤建設様をはじめ皆様のおかげで頑張ってきました。高倉部長とは、住宅事業部を担当された16年位前からお話しをする機会が増えて現在に至っており、昨年は30年前に有澤建設様に建てて頂いた、自宅のある賃貸ビルの外部の改修仕事を担当して頂きました。

中川白蟻様の会社の理念は？
弊社は、お客様への配慮・気配りを忘れず常にお客様の立場に立つて行動する事を理念としており、社員教育の徹底を図っております。また、白蟻等害虫に関する知識向上のために、講習会に参加したり資格を取得したり、常に変化している業界の流れに対応していくような努力を重ねています。
101年を迎えるにあたり、有澤建設に望むことは？
建築の仕様等の変化が激しいなか、お互いに業界の流れに乗り遅れないように前向きな姿勢で進んでいきたいですね。

株式会社中川白蟻 代表取締役

中川 利弘 様

リニューアル事業部 部長

高倉 秀吉



これからも末永いお付き合いを
よろしく願います。

協力会社として50年を超えるお付き合いがある上、ご自宅のある賃貸ビルや社屋の建設、改修工事もご依頼くださっている中川白蟻様。そんな固い信頼関係で結ばれた、中川白蟻代表取締役の中川様にお話を伺いました。

株式会社 中川白蟻

福岡市南区平和1丁目22番1号
<http://nakagawashiroari.co.jp>

株式会社 中川白蟻 社屋前にて

ARISAWA TOPICS

有澤建設の近況を紹介します



コーポレートロゴ変更のお知らせ

有澤建設株式会社(本社：福岡県福岡市博多区、代表取締役社長：木下英資、以下「有澤建設」)は、平成28年4月1日より、コーポレートロゴを変更しましたことをお知らせ致します。

有澤建設は来年で創業より100年となります。

今後もお客様に満足して頂ける建物作りができる会社としてあり続けるよう、事業を推進してまいります。



◆帳票類
名刺、封筒、
手提げ袋等
一新しました。

◆ヘルメット写真
遠くから見てわかるよう、
サイドに大きく描かれた a が特徴的です。
後ろからも横からも
有澤社員だと認識していただけるような
仕様になっています。

◆社章
円形の社章となり
a の優しい丸みが主張された
デザインとなっています。

◆工事看板・仮囲い・社旗など現場写真
青と白をベアで使用したツートン看板は ARISAWA
ブルーがより鮮明に感じられます。

工務部 主任

日野 綱平



入社13年目
好きな食べ物：ラーメン
趣味：仕事のあとのビール
3年前に禁煙に成功したせいか、
体重の増加が気になる今日このごろ…
最近はサウナによく行きます。



「有澤建設 本社屋のいま」

本社建替え工事の施工担当をしています日野です。「建物」というのは「感謝の塊」と感じることがあります。

建物を建てるためには自分一人の力では何もできません。本当に。まずは、近隣の皆様にご協力頂かなくてはなりません。どれだけ注力しても、どうしても解決しきれないのが音の問題です。極力騒音が出ないように防音シートで覆ったり、出来る限りの対策はしますが音はゼロには出来ません。近隣の皆様にはご負担をお掛けすることをお詫びすると共に、そんな中ご協力頂ける思いにいつも感謝し、その思いに応えるべく作業にも力が入ります。



するためぶつかる時もありますが、施主様が喜ぶ建物を建てたいという同じ思いを共有できる現場をととても嬉しく思うと同時に、そんな現場作りをしてくれる彼らにも大変感謝しています。

そして実際現場で作業を行う職人たちにもいつも感謝です。時には厳しいことを言います。それでも期待している以上のものをを出してきてくれます。妥協せず細部までこだわるところを現場とも共有できたと感じる瞬間です。毎回口には出しませんが、心の中で「ありがとう」と唱えながら暖かい気持ちになります。

建物が建つまでは多くの人が携わる大きなプロジェクトとなります。携わる人が多いからこそ、その分感謝の量も増えていきます。たくさんの方々の思いを背負って、感謝という建物をカタチにする。本社建替えも最後まで安全に注意し、感謝の気持ちを持ちながら作業を進めていきます。

